

# 「不登校後に進学」85%

2006年度の中学3年生で不登校を経験した人に5年後の状況を聞いた文部科学省の追跡調査で、回答者の85%が高校や専門学校などに進学していたことが分かった。21年前の中学生に行っていた同様の調査に比べて20歳上昇しており、大学・短大への進学も23%と、2.7倍に増えた。

## 文科省追跡調査

調査結果は9日、同省が発表した。06年度に中3で年間30日以上不登校だった約4万1000人のうち、協力依頼に応じた2561

## 前回より20ポイント改善

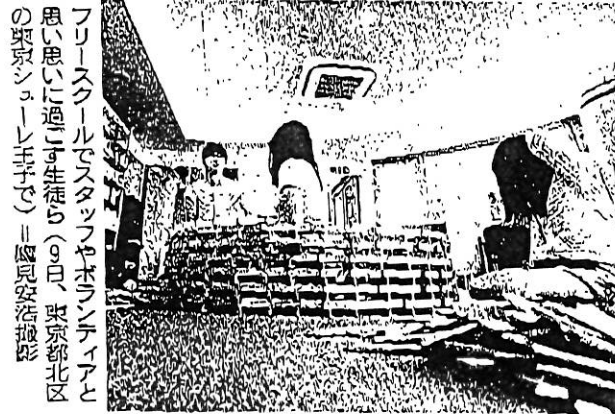
### 不登校の理由



「複合」は不登校の継続理由として様々な選択肢を選んだもの

### 「無気力型」最多

今回の調査では、不登校が続いた理由を5類型に分けた。最も多かったのは「無気力型」で、「何となく学校へ行かなかった」「朝起きられないなど生活リズムが乱れていた」といった回答が含まれる。「人間関係型」には、「いやがらせやいじめをされた」「先生が怒る、うるさい」といった回答を含む。



フリースクールでスタッフやボランティアと一緒に過ごす生徒ら(9日、東京都北区の東京シューレ王子で)＝隅見安浩撮影

## 就労へ「教育の質」が課題

今回の調査では、進学率は前回より上がったが、不況も影響し、正社員として働く人は9.3%。前回の22.3%から大きく減った。

都内の飲食店従業員男性(23)は今回の調査対象と

人にアンケートを実施、全体の4%にあたる約1600人が回答した。それによると、中学卒業後に「高校などに進学した」が81%、「就職して働きながら高校などに進学した」が4%おり、計85%が進学していた。同省は、1993年度に中3で不登校だった人を対象に、初めて同様の追跡調査を行った。この時の回答者約1400人のうち、高校などへの進学者は65%だ

った。また、最初の調査では高校中退率は38%だったが、今回は14%で大幅に減った。進学率の上昇は、意欲などを重視する入試を取り入れた東京都立高校の「チャレンジスクール」や、私立の通信制高校など高校側の受け皿が拡大したことがある。不登校の生徒への理解が進み、フリースクールなど、不登校の子どもの学習の場や居場所も以前より広がっている。

同じ06年の中3当時、学校に通わなくなった。クラブ

チームのサッカーの練習や地元の仲間と深夜に遊ぶなどしていたという。高校に進みたい思いもあり、不登校生をサポートする塾に通い高校に合格したが、他校の生徒とトラブルになるなどして、高1の翌年中退した。「中卒」で働くことも考えたが、不登校や中退した生徒の支援を行うNPO「高卒支援会」の杉浦孝宣代表(54)の説得で通信制高校に入り直した。今度アルバイトをして学費を稼ぎながら卒業した。

男性は「不登校にはなったが、いろいろな社会経験ができ、後悔はしていない。高卒の資格を得たのは良かった」と話す。ただ、調査結果は、進学はできても、就労が厳しい状況を示した。同会で勉強を教える杉浦さんは「中卒で働き口を見つけるのは現実には困難で、高卒資格は一つの保障と言え。将来を見据え、厳しい姿勢で子どもと向き合わなくてはならない時もある」と話す。

不登校だった生徒を受け入れる高校側などの「教育の質」も問われる。NPO法人・教育研究所の牟田武生理事長(67)は「受け皿は増えているが、高校で養うべき力をきちんと身に付けてあげなければ、社会に出てからの適応が難しい。教育内容が伴っていない。国のチェックが必要だ」と強調した。